

此花区・梅香小学校区発！

“地域の輪”を育む『おまもりプレゼント』

此花区の梅香小学校では毎年入学式の日、新1年生に世界で一つだけの手づくりのおまもりをプレゼントする取り組みが行われています。それは、はぐくみネットコーディネーターさん、生涯学習推進員さんをはじめとする地域の皆さん、PTAの方々、卒業する6年生児童が連携・協力してつくられています。この取り組みについて取材するため、2024年3月23日（土）、おまもりづくりの取り組みの中核メンバーが活動されている、此花区梅香小学校生涯学習ルーム「手芸教室」を訪問し、講座世話人で、はぐくみネットコーディネーターと生涯学習推進員をされている織田さんにお話を聞きました。



梅香小学校区について

梅香小学校は、ほとんどの学年が1学年1クラス、増えても2クラスまでの小規模校です。校区もこぢんまりとしているので、地域の大人と子どもが顔見知りであることも多く、商店街などで出会うとお互いが声をかけあうような地域です。

手芸教室はどんなところですか？

平成5年の生涯学習ルームが立ち上がる時に、コーラス教室、書道教室とともに始まり、今までずっと続いてやっています。コ

ナ前はメンバーが15人ぐらいいましたが、今は7人です。設立当初からのメンバーで残っているのは私（織田さん）だけで、あとのメンバーは口コミや地域の回覧板などで生涯学習ルームのちらしを見て来てくれた方たちです。一番新しいメンバーは昨年から来られています。刺繍が得意な人、布草履が得意な人、縫物が得意な人など、いろいろな方がおられます。



普段は、第2・第4土曜日の14時～16時に、梅香小学校の2階多目的室で活動しています。この教室の特徴は、講師がいないこと。みんな、年度のはじめに自分がつくりたいものを自分で決めて材料を教室に持ち寄り、作品づくりをしています。つくるものは人それぞれバラバラですが、教室の2時間を共有する、ということ大切にしています。つくった作品は年一回の生涯学習ルームフェスティバルで展示しています。今年はカバンやタペストリー、ぬいぐるみなどを展示しました。また、年に何回かは教室のみんなと同じものをつくることもあります。干支にちなんだ作品づくりや、梅香小学校の新1年生にプレゼントするおまもりづくりは毎年の恒例となっています。



おまもりづくりのきっかけ

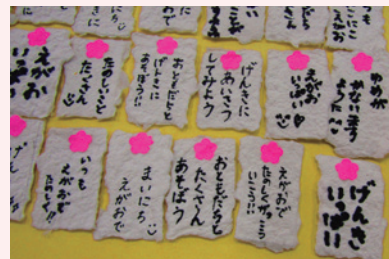
おまもりプレゼントの取り組みは、大阪市で小中学校選択制が導入された平成26年度にはじまりました。梅香小にも校区外から子どもがやって来ることになるので、そんな子どもたちも含めて、“梅香の子の輪”をつくれたらよいなあ、と思ったのがこの取り組みをはじめたきっかけです。当時のはぐくみネットコーディネーターのおひとりが、「新入生に『おまもり』をつくってプレゼントするなんてどう？」と思いつきました。その発想をうけて、私がサンプルのおまもりをつくり、当時の教頭先生に、「はぐくみネット×生涯学習ルーム×PTA×児童」が協働でつくるおまもりづくりの企画を提案しました。生涯学習ルームを運営する推進員が、はぐくみネットコーディネーターを兼ねていたり、PTAからの流れで推進員や、はぐくみネットコーディネーターになっている人が多数だったことや、学校との関係性が下地としてあったので、とてもスムーズに取り組みの大枠ができあがっていききました。気づけば10年ほど続く、毎年恒例の行事になっていましたね。



おまもりが できあがるまで

まず、おまもりの中に入れるメッセージカードを、牛乳パックの紙すきでつくることから始まり

ます。2月ごろに、その紙すきカードをPTAの実行委員さんたちにお渡しし、新1年生へのメッセージを書いてもらいます。「ともだちたくさんできますように」とか「げんきにえがおで」など、子どもたちの健やかな成長を願うメッセージがたくさん集まります。おまもりの表の「おまもり」という文字は、卒業する6年生に書いてもらっています。それらを集めて、次は手芸教室のメンバーが、おまもり袋を縫って、装飾をほどこしていきます。手芸教室の時間内ではとても時間が足りないので、みんな自宅に持ち帰ってつくっています。ひとつひとつが全部手づくりなので、どれひとつとして同じものはない、オンリーワンのおまもりです。3月の下旬には、できあがったおまもりに「はぐくみネット」の紹介文を添えてラッピングをし、学校にお渡します。「はぐくみネット」の紹介文は、こんな人たちが関わっているんだということを保護者の方にもわかっていただきたくて、必ず入れるようにしています。しばらくの間、校長室に飾っていただいた後、4月の入学式の日、校長先生から新1年生にひとりずつ手渡ししてもらう、というのが毎年のおまもりプレゼントの一連の流れです。



これまでとこれから ～コロナ禍を経て～

登下校時の見守りの時間に、ランドセルにおまもりがついているのを見ると、とてもうれしい気持ちになりますね。PTAの方におまもりの中に入れるメッセージカードを書いてもらった時、「自分の子どもたちももらっていたおまも

りの中にこんなメッセージが入っているとは知らなかったです！」と言っていたこともありました。ちょうど今日の午前中のことなのですが、生涯学習ルームの書道教室にきていた小学校2年生の児童が、「今年のおまもりはどうなっているの？」とふいに聞いてきたのでびっくりしました。「今、一生懸命つくっているところよ！」と答えましたが、その子は私がおまもりをつくっている人だということ知らずに質問してきたと思うんです。そんな風に思ってくれてるんやなあ、自分ももらったなあと覚えてくれているのかな、とうれしくなりましたね。



コロナ禍で生涯学習ルームの活動も中止になりました。小学校にも自由に出入りできなくなり、手芸教室のメンバーとも対面で会うことが難しくなった時は本当に大変でした。学校からはおまもりの取り組みを継続してほしいとお願いいただいたのもあって、私が材料を準備し、それを手芸教室のメンバーの家に一軒一軒ポストイングして配り、なんとかこの取り組みを途切れさせることなく継続できました。毎年、校長先生や教頭先生に「今年は、おまもりはどうしましょう？」と聞くのですが、先生方からは「恒例になっているからぜひともお願いします」と言われ、続けさせていただいています。ただ、このおまもりは、関わってくださる皆さんの協力があってこそできているものです。これからも続けていくために、はぐくみネットコーディネーターや生涯学習推進員の次の担い手が見つかるのか、手芸教室のメンバーがコ

ロナ前のように増えていってくれるのか、というのが今一番気になっていることです。若い方は忙しいのか、推進員やPTA、ルームの活動に参加する人が多くないのが現状です。



この取材後の4月某日、織田さんからうれしいご連絡がありました。コロナ禍ですと出席がかなわなかった入学式に、今年以来賓として参加することができたそうです。おまもりが校長先生から新1年生に手渡される様子を久しぶりに直に目にするのができ、とてもうれしい気持ちになりました、というご報告でした。

編集後記

地域と学校、保護者と地域、子どもと大人のつながりが、おまもりという目に見える形として結晶化されていることに、驚きと感動を感じる取材となりました。かつて、おまもりをもらう側だった1年生やその保護者が、今度は6年生として、PTAの役員として、それをプレゼントする側という循環も生まれていると聞き、これからもこの取り組みが続いていくことを願わずにはいられませんでした。学校と地域が連携し、地域の子もたちを地域ではぐくむ取り組みを、編集チームはこれからもスタートル新聞の紙面を通じて紹介してまいります。我が校区にはこんな素敵な取り組みがあるよ、という推進員の皆様、ぜひ情報を取材チームまでお寄せください。